□には、リンクがあります。※は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名	グループホーム八幡の里 ※
日付	平成18年2月10日
評価機関名	社会福祉法人　岡山県社会福祉協議会
評価調査員	①　病院での相談援助業務歴31年、家族介護歴13年、介護支援専門員歴3年 ②　特別養護老人ホーム等での認知症高齢者介護歴7年

自主評価結果を見る（事業所の自主評価結果にリンクします）

評価項目の内容を見る（岡山県の定めた評価項目へリンクします）

事業所のコメントを見る
（評価結果に対する事業所の改善状況についてコメントがあります！）

外部評価の結果

講評

全体を通して（特に良いと思われる点など）

・ホームのすぐ近くに、バス停留所・医療機関・スーパー・公園・神社・小学校などがあり、暮らしやすい地域環境です。

・ホームは地域の要望が寄せられて設立した経緯があり、周辺住民の理解が得られています。さらに、地域との交流を積極的に取り入れるよう努力しています。

・ホームの各居室は、トイレのある居室と、ない居室があり、入居者の状況や希望にあわせて、入居者自身が選択ができるように設計されています。

・管理者はグループホームの理念を基本として、熱心に施設の運営や管理、職員の教育などに配慮して業務を行っており、職員もそれに習い努力しようとする姿勢があります。

・職員が、業務をしやすいように1ヶ月の予定表をわかりやすく、見やすいように掲示し、また、記録物・備品管理についても、職員自身が積極的に業務を行なえるよう、整理整頓されていました。

・ホーム内の衛生管理が行き届いており、除菌水を利用するなどして清潔面へ配慮されていました。

特に改善の余地があると思われる点

・管理者は、グループホームの意義・役割・理念について、周囲の関係者・職員・家族にむけて、要点を盛り込んだ事柄を入れながら、わかりやすく伝え、協力を得られるように工夫をされてはいかがでしょうか。

I　運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		○
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か。		

・　高齢者にやさしく、入居者と職員がひとつになって、本当の家族にはなれませんが、第二の家庭をめざしています。

・　入居者や家族も安心して過ごせるような場所・時間を提供することをめざしています。

・　関係医療機関・医療サービスと連携して、健康管理を行いながら生活を支援することをめざしています。

II　生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間づくり	○	
3	入居者一人ひとりにあわせた居室の環境づくり	○	
4	建物の外周りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か。		

・入居前には、自宅を訪問し必要な物品を入居者家族と共に考えて、自宅で使っていた馴染みのものを少しでも多く用意していただけるように支援しています。

・入居してからも入居者の得意な趣味や特技が発揮できるように、手持ちのものがすでに無くなっているときには、必要なものを取り揃える努力をしています。（例えば、三味線や大正琴など）

・職員自身が、落ち着いた態度で、笑顔を絶やさない雰囲気を保つように努力しています。

III　ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録		○
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	

III　ケアサービス（つづき）

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシーの保護のために取り組んでいるものは何か。		

・入居者一人ひとりの何かをしたいという思いを聞き取るようにして、それぞれの趣味や好みに合わせ、日常生活においてできることを取り入れています。（例えば、園芸などが好きな方に庭仕事、芸事が好きな人には三味線や大正琴ができるようにするなど）

・宗教的な配慮（初詣や寺社詣でなど）もできるように、職員が入居者の心身の状況を踏まえながら、入居者の希望にあわせた行事ができるような企画に取り組んでいます。

・プライバシーの保護の観点から、居室に名札をつけないようにしました。

・家族以外からの電話や来訪による問い合わせには応じないなど、職員間で話し合い徹底して、個人情報保護に配慮しています。

IV　運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	家族の意見や要望を引出す働きかけ	○	
33	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
34	地域との連携と交流促進	○	
35	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		

・サービスの質の向上に向けて、管理者は常にグループホームケアに取り組む職員の育成に努力しています。

・職員はグループホームで生活する入居者の支援の他に、入院先の入居者に対しても洗濯物を取りに行ったり、入院先のスタッフとの連絡をしたり、入居者のつらさや家族の思いにも配慮しています。

・管理者は、事故や、ターミナルケアへの申し出など課題が発生したときには、職員それぞれがその問題を自分のこととして捉えられるように緊急のミーティングを行ったり、入居者の主体性・尊厳をもとにして、入居者の希望がかなえられるようにケアプラン全体について検討できるよう教育的指導を行うように努力しています。